

第43回 越馬徳治科学賞

～平成17年度受賞者・受賞校の業績～

平成17年度の越馬徳治科学賞の表彰式・助成金交付式は、平成18年2月14日（火）に石川県教育センターで、菱沼会長のご出席をいただき、業界や学校関係者参列のもと開催されました。受賞者、受賞校に賞状・助成金ならびに記念品などが授与されました。（本文中の勤務校や所属は平成17年度のものです。）

1. 個人表彰

白山市立広陽小学校 教諭 稲垣 淳 一

松任市（現白山市）立東明小学校を初任に、同千代野小学校、野々市町立富陽小学校、鶴来町（現白山市）立明光小学校を経て現在に至る。日本理科教育学会で「見通しをもって活動する中で自己変容していく子をめざして」のグループ研究をはじめ、個人研究や教材開発、執筆を行い、実践的な研究を進めている。科学作品コンクールにおいて指導した作品が優秀な成績を収めている。また、理科教育に関する研究会の委員も長年にわたって務めている。

金沢市立明成小学校 教諭 藤本 豊 志

金沢市立瓢箪町小学校（現明成小学校）を初任に、同小坂小学校、同中央小学校、同材木町小学校、金沢市キゴ山天体観察センターを経て現在に至る。「自然に親しむ楽しい理科学習」、「地域とのかかわりを大切にした合科的学習指導」、「理科から生活科へ」などの研究実績があり、執筆活動も行っている。また、科学教室の指導員や理科教育に関する委員も務めるかたわら石川県発明工夫展において三度学校賞に導くなどの実績がある。

金沢市立紫錦台中学校 教諭 尻屋 幹 子

金沢市立浅野川中学校を初任に、同港中学校、同金石中学校、同西南部中学校を経て現在に至る。石川県教職員研究奨励「個を生かす教材教具の工夫開発と理科室整備」をはじめ多くの共同研究や実践を行っている。指導面においても科学作品の指導や金沢市サイエンスクラブの指導員を長年にわたり務めており、高峰賞学校賞の受賞にも貢献している。また、金沢大学教育学部附属教育実践総合センター研究員として研究を進め、その成果を各学校の理科教育の推進に役立てている。

石川県立金沢泉丘高等学校 教諭 鹿野 利 春

石川県立小松工業高等学校を初任に、同金沢二水高等学校、(財)石川県文教会館、石川県立金沢桜丘高等学校を経て現在に至る。石川県理科教育研究協議会や石

川県高等学校教育研究会理化部会等において多数の研究発表および実践を行っており、近年は校内LANやWebを利用した化学実験の支援システムの開発を進めている。指導面においては化学部等の顧問を務めるかたわら、科学の祭典の講師、事務局員も務めている。また、石川県高等学校教育研究会理化部会などの委員も数多く務めている。

石川県立金沢桜丘高等学校 教諭 平野 賢 次

金沢市立高岡中学校を初任に、石川県立内灘高等学校を経て現在に至る。石川県高等学校教育研究会生物部会における研究発表などを行う一方、鳥類、特に石川県の野鳥に関する調査研究に積極的に取り組み、著作・論文等執筆活動も活発に行っている。指導面においては、科学関係の部活動の顧問を長く務め、「いしかわ高校生物のつどい」の研究発表指導を継続的に高い成果をあげている。また、石川県高等学校教育研究会生物部会の理事等も務めている。

2. 功労者表彰

金沢市立新登町小学校 教頭 山下 美奈子

金沢市立瓢箪町小学校（現明成小学校）を初任に、同米泉小学校、同中央小学校、同弥生小学校、石川県教育委員会事務局を経て現在に至る。越馬科学奨励研究「理科学習における問題能力の開発について」などよりよい理科の授業に関する研究・実践・執筆活動を通して理科教育の発展に貢献した。科学作品コンクール審査員や金沢女性理科・生活科研究会副会長、県生活科・総合的な学習教育研究協議会金沢市理事なども務めている。

金沢市立金石中学校 校長 寺井 邦 夫

金沢市立森本中学校を初任に、同野田中学校、同高尾台中学校、同緑中学校、同城南中学校教頭、同高尾台中学校教頭を経て現在に至る。研究として、金沢市個人委託研究「能登の珪藻土と堆積環境」などがある。科学部顧問として、生徒理科作品研究発表会への参加指導も継続して行ってきた。また、石川県理科教育研究大会において様々な委員を務め、第42回大会では推進副委員長を務めた。金沢市中学校統一テストの理科の責任者として長く携わっている。

石川県立中島高等学校 校長 浅野 敏 夫

石川県立加賀聖城高等学校を初任に、石川県立宝達高等学校教頭、石川県教育委員会事務局学校指導課参事、石川県立平和町養護学校校長等を経て現在に至る。

その間、長手石に関する研究をはじめ幅広く積極的に研究し、執筆活動に取り組んだ。また、石川県立高浜高等学校科学部の顧問として指導し、生徒科学作品コンクールにおいて優秀な成績を収め、中央審査出品に導いた。平成16年度からは石川県高等学校教育研究会地学部会長を務めている。また、国立科学博物館と連携しての事業で学校での理科教育を支援するなど、様々な機会での理科教育の発展と後継者の育成に力を注いだ。

3. 学校表彰

金沢市立南小立野小学校 (校長 矢田 史朗)

当校は、昭和62年に創意工夫育成功労学校として科学技術庁長官賞を受賞し、全国小学校理科研究発表大会を行った。その後、昭和63年に生活科研究推進校、平成3年に生活科実施推進協力校の指定を文部省(当時)から受け、多くの研究に取り組み成果を上げている。児童の科学研究活動に関しては、石川県児童・生徒科学作品コンクールにおいて平成15年の県知事賞をはじめ多数の受賞者を輩出し、全国児童才能開発コンテスト科学部門において平成16年に文部科学大臣賞を受賞した。また、石川県発明くふう展においても多数の受賞者を輩出し、平成17年には金沢市小学校発明奨励賞を受賞した。

金沢市立野田中学校 (校長 北川 彬人)

当校は、「一人ひとりが主体的に実験・観察する授業づくり」をテーマとして研究を進めている。それを具現化するために生徒に身につけたい4つの力を設

定し、個に応じた指導のための評価方法の充実をととして授業改善に取り組んでいる。また、生徒の作成物の掲示や、観察・実験器具の収納方法の工夫、参考図書の充実など、理科室経営にも力を入れている。その成果は、石川県児童・生徒科学作品コンクールへの参加数が年々増加していることや、高峰賞個人賞の獲得数などにあらわれている。

北陸学院高等学校 (校長 堀岡 啓信)

当校の理科同好会は、学校の文化祭などの場で、研究発表や子どもたちに実験を体験させる活動を行ってきた。平成12年より、石川地区中高生徒化学研究発表会に参加し、人工酸性雨、ハーブティー・紅茶などのpHによる変色、山葵(わさび)の効能、「飽和」への疑問とゾル・ゲルの研究、結晶づくりなどの身近な題材を用いた化学研究を発表してきた。また、宇宙開発事業団主催のSTS-107宇宙実験教育プログラムにおいて、卵白に含まれるタンパク質の研究で参加するなどの成果を上げている。

4. 学校助成

小・中・高等学校をつなぐ理科教育を積極的に推進している学校への助成金交付。平成18年度の石川県理科教育研究大会会場校に交付する。

中能登町立鹿西小学校 (校長 土屋 健次)

中能登町立鹿西中学校 (校長 池島 憲雄)

石川県立鹿西高等学校 (校長 谷口 祐弘)

